

第36回 炉内構造物等点検評価ガイドライン検討会 議事概要

1. 日 時: 平成20年 12月 9日(火) 13:30~17:20

2. 場 所: 日本原電本店第4・5会議室(神田美土代ビル)

3. 出席者(順不同 敬称略):

委員:野本委員長(東大名誉教授), 関村副委員長(東大), 安藤(博)委員, 安藤(柱)委員(横国大), 辻川委員(東大名誉教授), 西本委員(大阪大)、班目委員(東大), 橋爪委員(東北大)、吉田幹事(関電), 堂崎幹事(原電), 坂下幹事(東電), 笹田委員代理(北海道電)、長谷川委員代理(東北電)、市川委員(中部電), 石沢委員(東電)、野村委員(関西電)、溝部委員(中国電)、石川委員代理(四国電)、電、鞍本委員(電発), 小山委員(三菱重), 伊東委員(日立GE), 元良委員(東芝), 杉江委員(原技協)

参加者:小山(JNES), 岡田(東電), 進藤(中部電), 木村(関電), 太田・北條(原電)、松原・西村(三菱重)、事務局:関(原技協)

4. 議事概要

(1) 前回議事録案確認、承認された。

(2) ガイドラインの発行・改訂状況と、その後の機械学会での維持規格策定状況、国の技術評価の動向について紹介があった。

(3) 本検討会における点検評価・補修・予防保全ガイドラインの整備案件とスケジュールについて報告があった。

(4) 保全活動に係わる技術の適用プロセスについて、開発された保全新技術の実機適用をタイムリーに実施していくための対応方策や規程事項の検討を継続していくこととなった。

(5) 予防保全工法ガイドライン[水中レーザクラッド溶接工法]について、前回議論を踏まえたガイドライン案の説明があり、発行することが承認された。

(6) SCC予防保全技術としての「研磨による応力改善工法」について、前回議論を踏まえたガイドライン案の説明があり、継続検討となった。

(7) 炉内 CS 配管など円筒形状構造物の未点検部位について、欠陥想定法に基づく点検時期の見直し検討を継続することとした。

(8) 炉心シュラウド・シュラウドサポート ガイドラインの付録追補として、欠陥裕度評価に用いる二倍勾配法の妥当性検証に関する研究成果を反映することとし、次回検討を継続することとした。

(9) Ni基合金使用部位(異材継手)の今後のガイドライン策定方針異材継手の初回点検、次回点検、SCC考慮が不要となった場合の一般点検への移行の考え方など、継続検討となった。

(10) PWR バッフルフォーマーボルトのIASCC点検評価ガイドライン見直しに関する審議事項の説明があり、継続検討となった。

(11) 制御棒クラスタ案内管の点検評価状況についての報告があった。案内板磨耗結果と磨耗進行予測について妥当性が確認されたことから、今後のガイドライン改定に反映していくこととした。

(12) その他、次回検討会開催日は、年度内を目途に別途調整することとした。

以上